

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成22年5月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0270201221
法人名	医療法人 光成会
事業所名	グループホーム西弘
所在地	弘前市中野1-9-12 (電話) 0172-31-6655
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年2月12日

【情報提供票より】(平成21年12月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16人, 非常勤 1人, 常勤換算 4.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2 階建ての	1.2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	78 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西弘前クリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の繁華街に立地しており、近くには商店や銀行、公園などがあるため、気軽買い物や散歩に出かけ、住民の触れ合いの機会としている。

「人としての尊厳を重視」「家庭的な楽しい雰囲気」「グループ内での役割を持ち、買い物や外出などの市民生活の継続」というホーム独自の理念を掲げ、全職員がその実践に向けて日々のケアに取り組んでいる。

運営主体がクリニックであり、渡り廊下で行き来できるため、週1回の回診を行ったり、24時間いつでも相談・対応できる体制となっている。また、看護師の資格を持った職員を配置し、医療連携体制を整えるほか、重度化や終末期のケアに対応している。

また、ホーム内で解決が難しい問題があった場合は、理事長である母体病院の院長や事務長に相談できる体制となっている。

職員は利用者の意思や力量等を把握しており、手芸や園芸、洗濯、食事の準備・片付けなど、一人ひとりの得意分野で力を発揮できるようなケアを心がけている。

【特に改善が求められる点】

外部研修には積極的に職員を派遣しているが、職員を育てる仕組み作りとして、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。また、外部研修終了後は、報告書を基に伝達研修を開催するなど、今後のケアに反映できるよう、詳細に全職員に周知する取り組みに期待したい。

身体拘束に関するマニュアルを整備し、拘束のないケアを実践しているが、全職員が拘束の内容や弊害を詳細に理解できるよう、継続的に内部研修を実施する等の取り組みに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>権利擁護に関する制度の理解を深めるために、外部講師を招いて研修を行うなど、外部評価結果をすぐに職員間で話し合い、改善に向けた取組みを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、ミーティング時に評価の意義を全職員に伝え、自己評価は職員全員で意見を出し合って作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、委員が出席できる時間に合わせ開催するなど、なるべく参加していただけるよう配慮している。会議では、テーマに沿って意見交換や情報交換を行うほか、自己評価や外部評価の結果、改善策等を報告し、意見を出してもらっており、今後の運営に反映させている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>利用者は近所の方が多く、家族の面会も多いため、面会時に日々の暮らしぶりを報告している。面会時は家族が意見等を話せる雰囲気を作るほか、玄関に意見箱を設置するなどの配慮を行っている。また、ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書に明記している。家族等からの意見が出された場合は、職員で話し合う機会を持ち、解決策を運営推進会議でも話し合うなど、今後のケアサービスに反映するよう取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>天気の良い日は近くの公園まで散歩に出かけ、住民に声掛けするなど、ホームに関心を示してくれるよう働きかけている。また、行事を通じて住民との関わりを持っており、近所の方や隣接している母体病院の患者様等が気軽にホームに立ち寄っている。生活必需品は近所から購入するなど、地域資源と関わりを持っている。定期的に踊りなどのボランティアを受け入れており、その際は利用者のプライバシーについて説明している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>理念を玄関やリビング、職員休憩室など、様々な場所に掲示するほか、各ユニットで理念の検討会を毎年予定するなど、全職員が理念を共有し、実践に向けて取り組んでいる。</p> <p>外部から講師を招いて研修会を開催し、高齢者虐待について学んでいる。また、虐待に関するマニュアルを整備するほか、管理者が職員の日々のケアを観察したり、ミーティングで話し合うなど、虐待のないケアを実践している。虐待を発見した場合の対応や報告の流れをマニュアルに明記し、全職員への周知を図っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者や家族の意向に沿ったサービス開始に向け、相談受付段階から利用者の視点に立ち、希望や馴染みのもの、習慣、受診状況などを把握し、調整している。</p> <p>日々の買い物や散歩、食事の準備など、職員は利用者と一緒に行動し、一人ひとりの心理状態を観察しながら喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、手芸や園芸など、利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、共同して生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>日頃接する機会の多い職員が中心となって、利用者の意向等をカンファレンスで話し合い、介護計画作成時に反映させている。また、家族や関係者からの情報収集も行っている。</p> <p>介護計画の実施期間を明示し、3ヶ月に1回見直している。月1回はカンファレンスを行うほか、日常生活場面を観察したり、家族面会時に意向を確認するなど、利用者の状態や家族の要望等に変化があった場合は随時見直している。見直し時は再アセスメントを行っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の言動を否定することなく、羞恥心に配慮した対応を心がけている。職員は個人情報保護法について概ね理解しており、写真付きの広報誌は家族の承諾を得た上で、家族のみに送付したり、個人情報外部の方の目が届かない事務室に保管するなどの対応を行っている。</p> <p>献立は、母体病院の栄養士に確認してもらっており、栄養バランスの取れた食事となっている。1日の総摂取カロリーや水分摂取量を把握しており、摂取量は個々の介護記録に記録している。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、「人としての尊厳を重視」「家庭的な楽しい雰囲気」「グループ内での役割を持ち、買い物や外出などの市民生活の継続」というホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やリビング、職員休憩室など、様々な場所に掲示するほか、各ユニットで理念の検討会を毎年予定するなど、全職員が理念を共有し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	天気が良い日は近くの公園まで散歩に出かけ、住民に声掛けするなど、ホームに関心を示してくれるよう働きかけている。また、行事を通じて住民との関わりを持っており、近所の方や隣接している母体病院の患者様等が気軽にホームに立ち寄っている。生活必需品は近所から購入するなど、地域資源と関わりを持っている。定期的に踊りなどのボランティアを受け入れており、その際は利用者のプライバシーについて説明している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者は、ミーティング時に評価の意義を全職員に伝え、自己評価は職員全員で意見を出し合って作成している。また、外部評価結果をすぐに職員間で話し合い、改善に向けた取組みを行っている。</p>		
5	6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、委員が出席できる時間に合わせて開催するなど、なるべく参加していただけるよう配慮している。会議では、テーマに沿って意見交換や情報交換を行うほか、自己評価や外部評価の結果、改善策等を報告し、意見を出してもらっており、今後の運営に反映させている。</p>		
6	7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>広報誌や自己・外部評価の結果を持参するほか、運営に対する疑問点等があれば、頻りに担当者を訪問して相談するなど、行政との連携を図りながら課題解決に取り組んでいる。</p>		
7	8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部から講師を招き、職員はもちろん、運営推進会議の委員や家族を交えた研修会を行い、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する理解を深めている。</p>		
8	9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部から講師を招いて研修会を開催し、高齢者虐待について学んでいる。また、虐待に関するマニュアルを整備するほか、管理者が職員の日々のケアを観察したり、ミーティングで話し合うなど、虐待のないケアを実践している。虐待を発見した場合の対応や報告の流れをマニュアルに明記し、全職員への周知を図っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は重要事項説明書を用いて内容を説明し、利用者や家族の意見や疑問を引き出すよう努めている。契約内容を変更する場合は、あらかじめ広報誌でお知らせし、その後面会時に説明して同意を得ている。退居時も説明しており、退居先に関する情報提供等を行っている。</p>		
10	12	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>利用者は近所の方が多く、家族の面会も多いため、面会時に日々の暮らしぶりを報告している。金銭管理状況は出納簿に記録し、領収書を添付して報告している。受診結果は電話等でその都度報告している。職員に異動があった際は、広報誌で報告している。</p>		
11	13	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時は家族が意見等を話せる雰囲気を作るほか、玄関に意見箱を設置するなどの配慮を行っている。また、ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書に明記している。家族等からの意見が出された場合は、職員で話し合う機会を持ち、解決策を運営推進会議でも話し合うなど、今後のケアサービスに反映するよう取り組んでいる。</p>		
12	16	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動による利用者への影響を理解しており、担当制を取ってなるべく同じ職員が関るよう配慮している。ユニット間の異動や、退職者の補充による職員の異動はあるが、必要最小限に抑え、約1ヶ月かけて引き継ぎを行うと共に、利用者への説明を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務上の悩みについては、理事長である母体病院の院長や事務長、大学から週1回訪問する相談員に相談する体制となっている。職員の質の向上のため、個々の力量に応じて研修を受講できるよう配慮しているが、内部・外部研修の年間計画を作成するまでには至っておらず、外部研修後の伝達も報告書の回覧のみとなっている。	○	職員育成に計画性を持つため、内部・外部研修の年間計画を策定することに期待したい。また、外部研修受講後は、より詳細に全職員に周知するため、報告書を基に伝達研修を実施することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホームと交流を図ったり、地区のグループホーム協会に加入して研修に参加するなど、同業者とのネットワークを構築している。得られた情報は、ミーティングで話し合い、具体的に実践している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族の意向に沿ったサービス開始に向け、相談受付段階から利用者の視点に立ち、希望や馴染みのもの、習慣、受診状況などを把握し、調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の買い物や散歩、食事の準備など、職員は利用者と一緒に行動し、一人ひとりの心理状態を観察しながら喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、手芸や園芸など、利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、共同して生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者から希望を聞くほか、利用者の表情を観察したり、家族や関係者から情報を収集し、職員ミーティングで共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃接する機会の多い職員が中心となって、利用者の意向等をカンファレンスで話し合い、介護計画作成時に反映させている。また、家族や関係者からの情報収集も行っている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示し、3ヶ月に1回見直している。月1回はカンファレンスを行うほか、日常の生活場면을観察したり、家族面会時に意向を確認するなど、利用者の状態や家族の要望等に変化があった場合は随時見直している。見直し時は再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師の資格を持った職員を配置し、医療連携体制を整えている。また、馴染みの病院や美容院、買い物、外食に出かけるなど、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、入居前からの馴染みの病院や協力医療機関である母体の病院など、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、週1回母体の病院による回診を実施するなど、いつでも気軽に相談できる体制を整えている。受診結果は面会時や電話等で随時家族に報告し、共有している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアに対応しており、方針を明確にしている。対応について利用者や家族に説明して同意書もらうなど、利用者や家族、医師との意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定することなく、羞恥心に配慮した対応を心がけている。職員は個人情報保護法について概ね理解しており、写真付きの広報誌は家族の承諾を得た上で、家族のみに送付したり、個人情報外部の方の目が届かない事務室に保管するなどの対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かさず、一人ひとりのペースやその日の心身の状態に合わせた対応を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の好みを聞いた上で職員が作成し、疾病等に応じて代替食や刻み食を提供している。配膳や片付けなどは、利用者の希望と力量に応じて一緒に行っている。また、職員も一緒にテーブルを囲んで同じ食事や弁当を食べ、食べこぼし等へのサポートを行いながら、会話を楽しんでいる。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴となっているが、希望があればいつでも入浴でき、体調によっては足浴や清拭も行っている。1階ユニットの広い浴室を利用し、入浴習慣や時間帯、意向を考慮した上で、2名ずつの入浴を支援している。また、羞恥心の強い方には1人入浴を支援したり、入浴を拒否する方には時間をずらして別の職員が声掛けするなど、無理強いすることなく、柔軟に支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の面談や日々の生活場面から、一人ひとりの希望や力量等を把握しており、手芸や掃除、きり絵、習字、季節に合わせた工作など、個々に応じた役割や楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	恒例の観桜会や芋掘りに出かけるほか、利用者からの希望を聞き、近所の公園への散歩、ドライブ、買い物など、積極的に外出の機会を設けている。外出の際は、利用者の身体状況に合わせて車イスで対応するなどの配慮を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は、身体拘束について理解し、拘束のないケアを心がけている。身体拘束に関するマニュアルを整備しているが、職員全員が身体拘束の内容等を十分に理解するまでには至っていない。	○	継続的に内部研修を実施する等、全職員が拘束の内容や弊害等について理解を深めることに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	繁華街に立地しているため、防犯上夜間は鍵をかけているが、日中は居室、玄関を施錠していない。薬品等の危険物がある場所は、事故防止のために施錠している。外出傾向を察知できるよう見守りを行うほか、玄関にセンサーを設置しており、察知した時は職員が付き添って出かけている。また、ホーム行事や運営推進会議の時を利用し、住民に無断外出時の協力を呼びかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を想定した避難訓練を年2回実施し、終了後は反省会を行って次回に活かしている。また、災害時に備えて、消防署や警察署、地域住民に協力を呼びかけるほか、ホーム内に食料等の備蓄品を用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、母体病院の栄養士に確認してもらっており、栄養バランスの取れた食事となっている。1日の総摂取カロリーや水分摂取量を把握しており、摂取量は個々の介護記録に記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する対応マニュアルを整備し、ミーティング等で見直している。また、保健所等から情報を得て、職員間で学習している。感染症に関する情報は、広報誌等で家族にも周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには雛人形などの季節感のある品を飾っている。また、テーブルや和室なども設置しており、家庭的な雰囲気となっている。室内の明るさは適切で、職員が立てる物音なども騒がしくなく、居心地の良い空間である。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットやベッドは備え付けであるが、馴染みのイスや冷蔵庫、小物、位牌などが持ち込まれている。また、職員と一緒に飾りつけを行ったり、居室入口に好みの暖簾を掛けるなど、一人ひとりに合った居室作りを行っている。		

※ は、重点項目。